

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の最中、感染防止に努めながら、その時々状況に応じた臨機応変な運営を余儀なくされた。2021年度リハビリテーション室では「First penguin～変化を恐れず一歩を踏み出す～」をスローガンに定めた。刻々と変化する環境の中で、柔軟に対応し、新しい取り組みに挑戦する1年であった。

1. 人員体制

専任医：6名（回復期リハビリテーション病棟専従医1名）
理学療法士：19名（2021.11より産休者1名）
作業療法士：18名（2021.10より産休者1名、2022.1より産休者1名）
言語聴覚士：5名

2. 2021年度リハビリテーション処方依頼状況

リハビリテーション処方依頼件数は、入院疾患別リハビリテーション592件、外来リハビリテーション83件、計674件であった。（表-1）

表-1 リハビリテーション依頼件数の推移

	2017	2018	2019	2020	2021
入院	720	589	635	612	592
外来	73	100	81	77	83
合計	793	689	716	689	674

3. 2021年度入院疾患別リハビリテーション分類

(1) 患者属性

男性282名、女性310名、
平均年齢80.9歳（男性78.4歳、女性83.2歳）

(2) 疾患別リハビリテーション分類（表-2）

表-2 入院リハビリテーション疾患別分類

	脳	運動	呼吸	廃用	がん	消炎	摂食
2021	136	218	60	155	14	0	9
2020	122	227	48	165	10	0	40
2019	130	235	79	140	11	2	29
2018	148	255	71	116	10	6	
2017	152	257	46	112	22	4	

4. 2021年度外来リハビリテーション処方依頼状況

(1) 患者属性

男性44名、女性39名、
平均年齢62.5歳（男性57.0歳、女性68.6歳）

※神経心理検査は患者属性に含まない

(2) 疾患別リハビリテーション分類（表-3）

表-3 外来リハビリテーション疾患別分類

	脳	運動	呼吸	廃用	心理検査	消炎
2021	6	75	5	0	70	1
2020	8	64	3	2	93	0
2019	4	108	0	0	149	8
2018	8	66	0	5	175	2
2017	4	96	0	0	1	2

5. アウトカム評価

対象：2021年4月1日～2022年3月31日までに当院のリハビリテーションを受けて退院した患者

(1) 病棟（床）別疾患別リハビリテーション分類及び在宅復帰率

①一般病床

対象：退院者56名（男性33名、女性23名）
平均年齢83.5歳（男性82.0歳、女性85.7歳）
疾患別リハビリテーション分類（表-4）

一般病床在宅復帰率及び転帰先状況（表-5）

表-4 一般病床疾患別リハビリテーション分類

脳血管	運動器	呼吸器	廃用	がん	摂食
13	9	12	14	3	5
23%	16%	21%	25%	5%	9%

表-5 一般病床在宅復帰率及び転帰先状況

病院転院	施設転院	自宅退院	居宅施設	死亡	その他
11	3	16	7	19	0
20%	5%	29%	13%	34%	0%

②地域包括ケア病床（2階、3階）

対象：退院者272名（男性146名、女性126名）
平均年齢81.6歳（男性79.9歳、女性83.5歳）

疾患別リハビリテーション分類（表-6）

地域包括ケア病床在宅復帰率及び転帰先状況（表-7）

表-6 地域包括ケア病床疾患別リハビリテーション分類

脳血管	運動器	呼吸器	廃用	がん	摂食
21	78	36	127	10	0
8%	29%	13%	47%	4%	0%

表-7 地域包括ケア病床在宅復帰率及び転帰先状況

病院転院	施設転院	自宅退院	居宅施設	死亡	その他
16	24	184	27	16	4
6%	9%	68%	10%	6%	1%

③回復期リハビリテーション病棟

対象：退院者226名（男性85名、女性141名）

平均年齢79.2歳（男性73.1歳 女性82.9歳）

疾患別リハビリテーション分類（表-8）

回復期リハ病棟在宅復帰率及び転帰先状況（表-9）

回復期リハ病棟実績指数（表-10）

表-8 回復期リハビリテーション病棟疾患別リハビリテーション分類

脳血管	運動器	呼吸器	廃用	がん	摂食
101	125	0	0	0	0
45%	55%	0%	0%	0%	0%

表-9 回復期リハビリテーション病棟在宅復帰率及び転帰先状況

病院転院	施設転院	自宅退院	居宅施設	死亡	その他
12	23	163	24	1	3
5%	10%	72%	11%	0%	1%

表-10 回復期リハビリテーション病棟実績指数

	2017	2018	2019	2020	2021
実績指数	53.9	44.4	46.2	53.1	54.4

(2) 病棟（床）別FIM利得（表-11）

	入棟時FIM	退院時FIM	FIM利得
地域包括ケア病床	69.44	83.50	14.06
回復期リハビリテーション病棟	64.28	88.15	23.86

6. リハビリテーション室における2021年度のまとめと今後の課題

- ・リハビリテーション総依頼件数は2020年度と比較すると、入院は減少、外来は僅かに増加していた。疾患別では、脳血管・呼吸は増加、運動器・廃用は減少していた。
- ・一般病床は、3病棟40床のうち、12床が地域包括ケア病床へ移行となり、2020年度と比較すると、疾患別リハビリテーション対象者は102名から56名と減少した。
- ・また、地域包括ケア病床においては、2020年度と比較すると、病床数は増加したものの、対象者は272名から220名と減少した。これは、2021年度9月頃より強化したPOC（Point of Care）リハの取り組みによるものである。POCリハは、疾患別リハとは異なり、疾患にはとらわれず、ADL低下のある患者に対し、主に集団体操や運動指導等により廃用予防を行う取り組みである。今後も、POCリハを継続し、包括的なリハビリテーションによって廃用予防、ADL維持・向上を図っていく。
- ・回復期リハビリテーション病棟における対象者は、2021年度は226名であり2020年度とほぼ同等であった。自宅・在宅復帰率は、72%・83%、FIM利得は23.9と概ね良好な結果であった。また、回復期実績指数〔FIM運動改善／（在棟日数／算定上限日数）〕においては、54.4と

前年度を上回り、過去5年においても良好な結果であった。

- ・当院周辺地域の高齢化、過疎化、人口減少は今後も進行していく中で、質の高いリハビリテーションを提供することで、患者の在宅復帰・社会復帰を支援することが求められる。昨今のコロナ禍において、家族の面会制限や、家屋環境調査・外出訓練が制限されるなど、在宅復帰支援が妨げられる状況にあった。そのような状況の中、特にICTを活用したカンファレンスを行い、タブレット端末でリハビリ状況を家族に説明するなど、対面接触が制限される状況において顧客満足が得られるよう工夫を行い、在宅復帰率も維持できた。
- ・今後しばらくは新型コロナウイルス感染を念頭においた取り組みが必要であると思われる。しかし、一方で急速に進化したICT環境は今後リハビリテーションサービスの業務改善やクオリティーの強化のために活用できるものと思われる。患者満足・関係機関との連携・書類業務の効率化など様々な工夫を行っていきたい。また、今後も継続的に進行する人口減少、高齢化においては、当院の強みでもある在宅介護支援部とも協力しながら質の高い在宅復帰支援、在宅生活継続支援を行っていく必要がある。